

✠ 新大陸移住から世界最強の合衆国へ ✠

14～15世紀のヨーロッパは、マルコ・ポーロの「東方見聞録」に記された絹・金・香辛料などを産する「東洋」の存在に強く憧れを抱いていた(図1)。

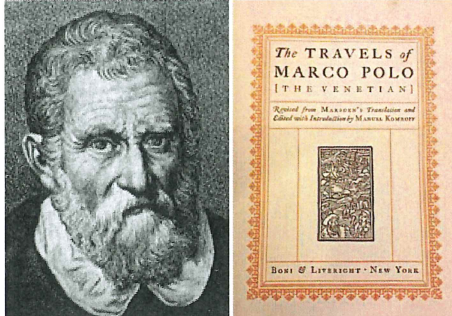


図1. マルコ・ポーロと東方見聞録

中でも、イタリアのコロンブスは西回りの航海をすれば東洋に到達できると考え、1492年、スペインの「イザベル女王」の賛同を得て、サンタ・マリア号で西南への大航海に出た(図2)(図3)。



図2. コロンブスの初航路

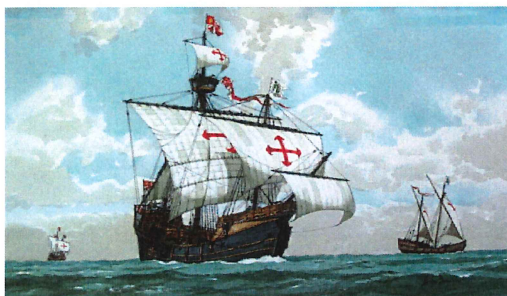


図3. サンタ・マリア号

1504年までの間に4回も大西洋を渡り、絹・金・香辛料を産する国を探索したが、南北アメリカ大陸の壁に阻まれ、それらに到達できなかった。

アメリカ大陸固有の「香辛料」をヨーロッパに持ち帰ったことで世界の食文化に多大な影響を与えることになったが持ち帰ったのは「胡椒」ではなく「唐辛子」だったため唐辛子は辛みが強く胡椒とは風味も違い、ヨーロッパでは受け入れられなかった。

コロンブスは、イザベル女王の説得のために使った香辛料貿易で得られるはずの莫大な富のためにインドに辿り着けなかったとは言えず、唐辛子を「赤い胡椒」



図4. 胡椒と間違われた唐辛子

と言いつけたため、現在、「唐辛子」はRed Pepperと言われている(図4)。

16～17世紀にかけて英国教会の改革を主張する清教徒が勢力が強まり国内で弾圧を受けていたため、1620年、弾圧から逃れ信仰の自由を求めて清教徒“ピリグリム・ファーザーズ”(図5)はメイフラワー号に乗ってアメリカ大陸に到着した(図6)。



図5. 弾圧される“ピリグリム・ファーザーズ”



図6. メイフラワー号

その後、多くのイギリス人が移住して植民地を建設しボストンなどの町を作り、1776年、イギリスの植民地から東部13州が独立し「アメリカ合衆国」が誕生した。

独立時、ボストンは「WASP」の本拠地になった。

「WASP」とは、White Anglo-Saxon Protestantの略で、白人・アングロサクソン・プロテスタント系の人々が、政治や経済、文化の中心を担うというもので現在もこの傾向は引き継がれている。独立後、アメリカは1783年に領土を割譲、次々と領土を拡大し、現在の50州となった(図7)。

イギリスからの移住民には過酷な環境が待っていたが

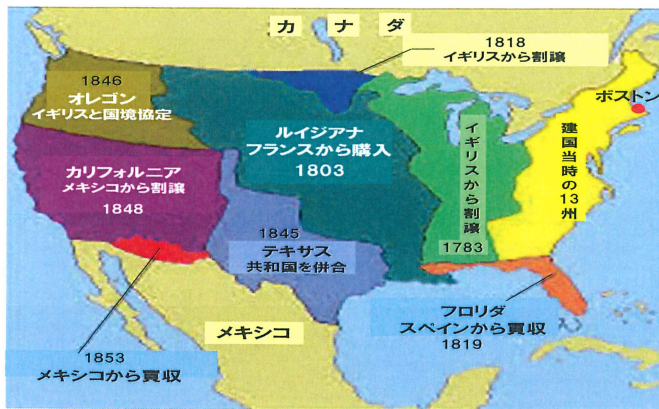


図7. アメリカ合衆国の領土拡大

原住民のネイティブ・アメリカンから食料や衣服をもらい、トウモロコシの栽培を教わり生き延びていた。ネイティブ・アメリカンは昔、“インディアン”と呼ばれていたが、コロンブスが新大陸を“インド”と間違えたからである。

1776年、「アメリカ独立宣言」が出され“すべての人間は平等に作られている”と謳われたが、黒人とネイティブ・アメリカンは適用外であった。

アメリカ合衆国が独立を果たした後、領土は東側に集中し、大陸の西側地域は「未開の地」として認識していたが、“よりよい生活と経済的な向上”を目指して人々は「西部開拓」を進め、領土を拡大させた。

西部開拓の主な理由として次が挙げられる。

- ① 広大な土地と豊かな天然資源の存在
- ② 人口密度が低く成功のチャンスが豊富

西部開拓は“フロンティア”と呼ばれ、決意と自由の気概に満ちた“開拓精神”を育んだ。

一方、無数の黒人奴隷を輸入して扱き使うだけでなく西部開拓の名の下にネイティブ・アメリカンを排除、殺害し彼らとの契約を無視し、西へと拡大を続けネイティブ・アメリカンは恩を仇で返された(図8)。

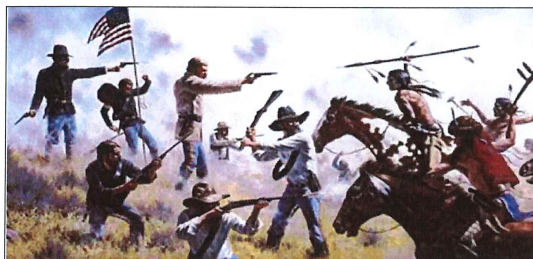


図8. ネイティブ・アメリカンとの戦い

旧約聖書の“産んで増やし、海・空・地の生き物をすべて従わせなさい”を引用し、人々は西部開拓を「Manifesto Destiny(神が与えた天命)」と主張し自らの行為を正当化し、人口増加と土地不足に悩まされていた当時のアメリカは“神からの思し召し”であると考えていた。

1845年にテキサスを併合、1848年にカリフォルニアを領土とし、アメリカは太平洋まで到達した(図9)。



図9. アメリカ西海岸・太平洋まで到達

1848年、カリフォルニアで“金”が発見されたため金脈を求めて10万人が移住、カリフォルニアの経済と人口増加に大きな影響を及ぼし、1854年に金と交換できる紙幣も発行された(図10)。

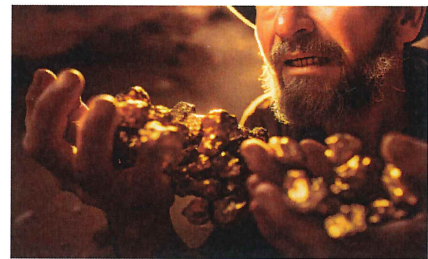


図10. カリフォルニア・ゴールドラッシュ

徳川幕府がアヘン戦争に衝撃を受ける中、1853年、アメリカ海軍東インド司令長官「マシュー・ペリー」の艦隊が“交渉によっては琉球・小笠原の占領も止むを得ない”覚悟で来港した(図11)。

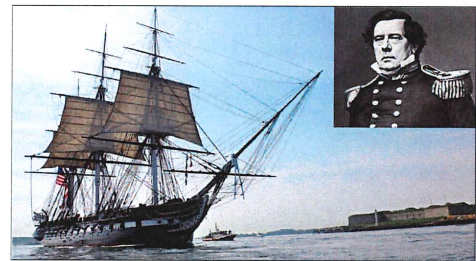


図11. ペリーの黒船来航

1898年、日本に脅威を感じたアメリカはハワイを自国の領土にし、スペインの植民地だったキューバで停泊中の米国軍艦の爆発で260人が犠牲になったがスペインの仕業と決めつけ、アメリカが戦争を仕掛けてプエルトリコ、グアム島をスペインから奪った。

米国はフィリピンにスペインの追い出しを要請したが約束を破棄し、50万人のフィリピン人が殺害された。太平洋の次の狙いは中国大陆であったのである(図12)。

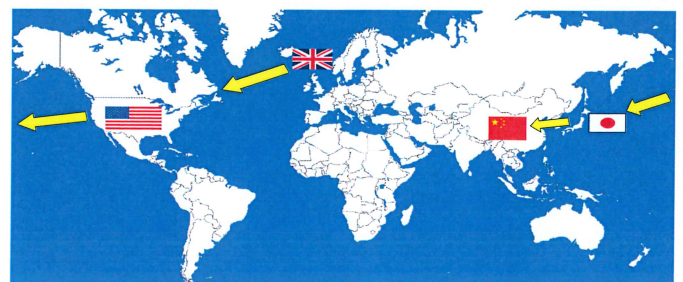


図12. イギリス⇒アメリカ⇒日本⇒中国